

終了報告書(様式1) 2017年度アジア生協協力基金一般公募助成事業による活動・事業

*大きな計画変更が発生したときは、助成事項の変更に該当します。至急、事務局にご相談ください。

組織名	特定非営利活動法人スバ・ランカ協会			
代表者	役職	会長	氏名	大岩碩
申請事業名	サバラガムワ州ケーゴール県の農山村での1州1品運動の第一歩事業			
助成金交付額	900	千円	実施期間	2017年4月1日～2018年2月28日

報告書作成日	2018年3月28日
--------	------------

報告者	役職	会長	氏名	大岩碩
	E-mail	oiwamasaru@gmail.com / office@subalanka.org		TEL

1. 応募時の実施計画と対比した遂行状況

- * 下表左側の「申請時の計画」「申請計画」欄は、助成に応募した際の「申請書」の該当欄(「実施計画」)からコピー・ペーストするか、同様の内容を記入してください。
- * 右側の「実施内容」欄は、字数は制限しませんが、簡条書きで簡潔な記述をお願いいたします。枠が足りない場合は、行数や行の高さを増やし、自由に次ページに拡張してください。「中間報告書」からコピー・ペーストし、加筆いただくのが便利です。
- * 計画変更等があった場合には「備考」欄に記述してください。

	計画年月	申請計画	実施年月	実施内容	備考
	申請時の計画	2017年4月	「覚え書き」の締結 チャミット氏の銀行口座に入金。	2017年4月	
2017年5月		アイスクリーム製造機械と輸送用トラックの購買。	2017年5月	5月23日 90万円(1,216,216ルピー)をマハジャナ銀行のチャミット氏の口座に振り込んだ。	個人の口座より協同組合の口座に入れ替えたほうが良いとの助言があった。その時はなるほどと思い、チャミット氏と話し合ったが、彼は団体の口座に入れると引き出しの手続きに時間がかかり事業展開に即応できないとの意見であった。私はその事情がよく理解できると、チャミット氏とは2007年からともに事業を行い、その都度個人口座に振り込んでも問題がなかったので入れ替えをせずにそのままにした。
			実施時の経過		

2017年6月	貸付金を増額した新貸付制度の開始。アイスクリームの製造開始。	2017年6月	製造機械の購入が延期したため、製造を開始できなかった。	機械はまだ購入していない。その費用の半分(108,500円)をクシカルメ・サットゥ・パーラナ(農業省家畜保全局)が出してくれることになり、その実行を待っている状況にある。当該の牛乳生産協同組合は、昨年、サバラガムワ州における最優秀牛乳生産者に選ばれたため、その報奨金として機械購入費用の半分の支給されることになっている。 2017年10月に支給予定
2017年7月	6月の製造量と売上等について電話・メール等による確認。	2017年7月	確認する事業展開はなかった。	
2017年8月	7・8月の製造量と売上について電話・メール等による確認。	2017年8月	8月5日 貸付を行った。貸付金214,600円(29万ルピー)、対象になった会員は9名(牛舎建設3名、乳牛の購入4名、牛乳製品製造のための道具の購入2名)	上述の通り、当該の牛乳生産協同組合に最優秀牛乳生産者の報奨金として機械購入費用の半分の支給されることになったので機械購入予算の半額(108,500円)を貸付予算金額に加え、さらに自己資金も加えて貸付金額を214,600円に増額した。
2017年9月	貸付状況の確認とガ・ラカ協会会長の実地検分。中間報告書の提出。	2017年9月	1,073,000円(145万ルピー)の保冷車を購入するためにサナサ・サンワルダナ銀行(サナサ開発銀行)に融資してくれるように依頼した。9月20日に調査に来るとの連絡があったが来なかった。	
2017年10月	9月の製造量と売上について電話・メール等による確認。	2017年10月	アイスクリーム製造機械の購入に関する政府補助金(半額補助)が支給される予定であったが実施されなかった。 保冷トラック購入のための融資が実行されるのは10月後半と予測されたが調査にも来ず、融資は実現しなかった。	
2017年11月	10月の製造量と売上について電話・メール等による確認。	2017年11月	アイスクリーム製造機械の購入政府補助金(半額補助)が支給されるとの連絡があったがなしのついでで実行されなかった。問い合わせたところ1月5日ころには出る予定といわれた。	
2017年12月	11月の製造量と売上について電話・メール等による確認。	2017年12月	12月25日に地方選挙の公示があった。選挙期間中は政府関係省庁からの金銭・物品の授与及び政府機関への提供は法律で禁止されているため、機械購入の補助金も選挙が行われる2月10日までは凍結された。 12月25日会長の大岩が渡スリし、チャミットと会い、製造機械の補助金問題を話し合った。もはや補助金に頼ることはできないと考え、家畜研究所に相談に行くことにした。	大岩はスリランカのマールナアッタに開校する日本語学校の校長として赴任することとなり、スリランカ渡航費が支給された。
2018年1月	12月の製造量と売上の確認。協会会長の実地検分。	2018年1月	上述の通り1月5日に補助金が出る予定であったが、上記の凍結のため入手できなかった。もらえる可能性が極めて少ないと判断し、上述の通り、家畜研究所に相談に行った。家畜研究所では、購入予定の機械よりも安く多く作れる攪拌機の購入を勧められた。補助金が出ない分、安い機械が望ましいので助言を受け入れることにした。	攪拌機はパンやケーキを作るときに粉を攪拌する機械であり、18万ルピーすることであった。

<p>2018年2月</p>	<p>製造量と売り上げの総計及び貸し付け状況の確認。事業完了。</p>	<p>2018年2月</p>	<p>2月10日に選挙が実施され、11日から上記の凍結は解除されたが、現政権に対する野党が大勝利をおさめ、現政権の半額補助の決定は覆されると考えられ、もはや補助金を待つことはできないことが決定的となった。予算内で機械を購入することにし、12日に、家畜研究所の助言に従い、アイスクリーム製造のための攪拌機を購入し、13日に製造を開始した。 サナサ開発銀行からは何の連絡もなかったので融資は無理と判断し、保冷車を購入することはあきらめた。次善の策ではあるが、保冷庫を買い、幌付きトラックに積んで対応することにした。予算内で16日に当該トラックと保冷庫を購入し、17日から約24の商店への配送を始めた。全商店を回るのに約2時間かかる。 2月23日、家畜研究所からY.M.P.A.セネウィラトゥナ氏が来て、牛の餌について講習を行った。牧草の少ない時期にどのようにえさを確保するかがテーマ。</p>	<p>1日40ℓの牛乳から60ℓのアイスクリームを製造。日曜日はやすみで、製造実働は13日間。 商店は、アグルワツラ、ルワンウェツラ、ガリガムワ、ダディガマ、パッレーガマ、ワラカーボラなどにある。講習への出席者は8名であった。</p>
<p>2018年3月</p>	<p>完了報告書 提出</p>	<p>2018年3月</p>	<p>1日に14日間のアイスクリーム製造の収支を明確にするように伝えた。</p>	<p>生産したアイスクリームの780リットルから730リットル売って186,150ルピーの売り上げ。支出は168,420ルピー。利益は17,730ルピーとなった。</p>

助成に応募した際の「申請書」の実施計画からコピー・ペーストするか、同様の内容を記入してください。

事業の達成状況と振り返りの自己評価を記入してください。その際、計画から事業内容に変更があった場合にはそのことがわかるように記入してください。

2. 活動・事業によって得られた成果、残された課題

- * 下表左側の「申請時に助成によって期待していた効果」欄は、助成に応募した際の「申請書」の該当欄(「3. 申請の理由」)からコピー・ペーストするか、同様の内容を記入してください。
- * 右側の「成果」と「課題」欄は、字数は制限しませんが、箇条書きで簡潔な記述をお願いいたします。実施した内容については上の「1. 応募時の実施計画と対比した遂行状況」に記入しますので、結果についての総括的な自己評価をご記入ください。枠が足りない場合は、行の高さを増やし、自由に次ページに拡張してください。

申請時に助成によって期待していた効果	支援先における効果	草の根レベルで1州1品運動の芽を育て、それを開花させていくことでスリランカ国での持続可能な地域おこしを推進させることができるという効果がある。初めはガラピタマダという小さな地域からの出発であるが、アルピティヤ牛乳組合の運営のノウハウを他地域の乳牛飼育農家に教え、ケーゴール県にさらにサバラガムワ州に牛乳組合を拡大していくという可能性を持つ。	活動・事業によって得られた成果・残された課題	支援先における効果	<p>【成果】 アイスクリーム製造の開始がおくれたため、周辺の会員ではない村人に牛乳生産組合の存在を知ってもらうことはできなかった。</p> <p>【課題】 アイスクリーム製造を継続していき、組合の存在を皆に知らせるようにする。ただ製造していますよと見せるだけではなく、製造に関するワークショップを開き、村人、地方の農業局の役人を招待するようになりたい。</p>
	育成する人材への効果	牛乳組合役員3名は当該事業を実施する過程で1州1品運動を推進する経験を積み、持続可能な地域おこしを実現する方策を身に付け、草の根レベルで地域の変革を担う人材となっていく。このことは、彼らには地域のリーダーとして、後に続く青年たちの成功モデルにならなければならないという、さらには、一般の組合員農家にも1州1品運動の担い手であるということ意識させなければならないという自覚が醸成される。これが効果である。		育成する人材への効果	<p>【成果】 買付を受けた人たちが牛乳生産が大きな効果を得ることを認識した。牛舎の建設費用の貸付を受けた人は、これによって収入が増えたので、貸付額を増やし、より多くの会員にチャンスを与えてほしいと述べていた。子牛の購入をした人は、貸付を通して組合の活動に触れ、今まで1日10しか搾乳していなかったのが、60に増えたと喜んでいて。また、定年後、牛飼育を始めた人もおり、少年時代に家で飼っていたことを思い出し、協同組合からの助言も得られるので、やろうと決心したと言っていた。組合活動を行う役員の努力が報われたと実感できた。このように役員地道な努力が実を結びつつあることが評価できた。</p> <p>【課題】 役員は今まで以上に貸付額を増やす方策を話し合い実行していかなければならない。ただ今は自己の生産のみに関心があり、組合を他地域にも広げていくという意識が薄い。ことあるごとに州の1品運動につながることを強調しなければならぬ。</p>
	貴組織における効果	上述の試算には牛乳を煮るのに必要なガス代が計上されていないが、それは彼らが自前でガスを供給できるからである。我々はあいちモリコロ基金からの助成金を基にチャット氏の自宅敷地に堆肥・バイオガス生産研修センターを開設した。ここで生産されるバイオガスをアイスクリーム製造に使う。これは助成を受けた事業からさらに次の事業へと展開していくことを意味し、助成を受けた我々にとって喜ばしいことであり、大きな自信になる。		貴組織における効果	<p>【成果】 機械購入の時期が大幅に遅れ、つぎの事業展開を考える余裕もなく、成果らしい成果を得ることができなかった。</p> <p>【課題】 機械の購入に関する現地の判断について協会としてもっと適切な指導をすべきであった。スリランカ政府の行政が緩慢であることを認識していたにもかかわらず、現地の判断にづるづると引きずられたと思っている。また、アイスクリーム製造に関して、食品管理の理解が協会として乏しかったと反省している。最初から保冷車の購入を想定して予算計上すべきであった。さらに、アイスクリーム製造機械についても我々の認識が甘かったと思う。というのは、当初の予算計上ではアイスクリーム製造機械を想定していた。しかし、実際に購入が現実となり、家畜研究所に行き助言を求めたところ、小型のアイスクリーム製造機械はソフトクリームの製造機械であり、学校近辺で売ると指摘され、より多くの販売機会を想定し他方が得策と言われた。大型機械ならあるのだが、これは大きな会社が扱うものであった。そこで、家畜研究所の勧めで、攪拌機を買うことになった。予算上は少額で済み、この減額分を保冷库購入に回すことができたが、本来ではない。製造機械に関して、現地任せにせず、協会としてもっと事前の調査を深くすべきであった。</p>

助成に応募した際の「申請書」の「3. 申請の理由」からコピー・ペーストするか、同様の内容を記入してください。

実施したことそのものではなく、結果についての自己評価を総括的に記入してください。